二〇一六年二月一二日

牡蠣舟の吃水深く戻りけり　さつき
呆け防止とて大股に青き踏む　うつぎ
ハミングもとびだす風の木の芽道　菜々
広芝にあまねくとどく春日かな　ひかり
寒風に肩寄せあへる羅漢かな　豆狸
猪罠の檻に遊べる雀どち　うつぎ
がうがうと怒涛のごとし東風の藪　明日香

二〇一六年二月一一日

大とんど四隅の樽に鎮め水　有香
願い絵馬うち重なりて春を待つ　宏虎

二〇一六年二月一〇日

春の風四方より通ふ石舞台　明日香
野良猫の春の夢みるボンネット　よう子
針箱は母の形見や針供養　よし女

二〇一六年二月九日

春寒しとて二タ三言すれ違ふ　満天

二〇一六年二月八日

闊歩せる鶏たちに下萌ゆる　うつぎ
猫の夫やつれ顔して朝がへり　菜々
蕗の薹摘みし移り香かと思ふ　三刀
赤札を返して思案植木市　よし女

二〇一六年二月七日

藍残る薄暮の空や春きざす　有香
産土の頬刺す風に梅探る　とろうち

二〇一六年二月六日

一両車みかんの里に傾きぬ　さつき
のどけしや牛車で巡る城下町　さつき
雪庭の己が足跡踏み戻る　三刀
うすらいの流離ひそめし亭午かな　ともえ
名を呼ばれ春眠覚めし美容院　よし女
炭焼の煙に日矢の斜めかな　うつぎ